

たがわ



令和6年1月1日現在	
総世帯数	1,990世帯
総人口	3,824人
男	1,839人
女	1,985人

田川児童センターで こども防災・安全教室を開催

松本市赤十字奉仕団田川分団は、11月8日(水)に、田川児童センターで「こども防災・安全教室」を開催しました。この講習会は10年以上継続して行われています。

今回は田川分団による災害時の非常食づくりの実習と、松本市社会福祉協議会職員による災害時の安全についての防災講話を行いました。災害時に考えなければならぬことの1つは食糧の確保です。ライフラインが途切れた時にどうしたらおいしいご飯を食べられるか。赤十字では、災害時のおいしくご飯を炊く方法として、ハイゼックス(高密度ポリエチレン袋)という非常用炊出し袋を活用しています。ハイゼックスの中に米と水を入れ、30分煮沸するだけでご飯が炊きあがります。ハイゼックスが手に入らない場合には、家庭にある

一般のポリ袋を使う炊飯方法もあります。

当日は、子どもたちに実際に両方の炊飯方法を体験してもらいました。どちらも手順は同じで、炊飯袋に米と水を同量入れ、空気を抜いたのち、袋の口をしっかりと縛ります。子どもたちにとっては、この作業が意外と難しく手こずった様子でしたが、友だち同士で協力しながら、時間内



に2種類の炊飯袋が用意できました。その後、団員がグラグラ沸く炊出し用大鍋に炊飯袋を入れる様子を見学してもらいました。防災講話が終了するころには炊きあがり、大鍋の周



りにはほのかに甘いお米の香りが漂っていました。

「ぜひ試食させたい」という児童センターの先生たちのリクエストがあり、薄い塩味の試食用ハイゼックス米を試食しました。出来立ての温かいご飯はとてもおいしく、子どもたちにも大好評でした。

ポリ袋調理はおかず作りにも応用でき、子どもたちを通して各家庭に広まってほしいと思います。町会の防災訓練でも体験できるので、ぜひ日赤にお声がけください。

今回の講習会は、コロナ禍でしばらく休止していた炊出し訓練にもなり、団員にとっても良い機会となりました。あつてはならない災害ですが、このわずかな防災体験の積み重ねが記憶に残り、大切な命を守る知識になることを願っています。

【日赤奉仕団田川分団
分団長 水野美知子】

軽井沢 ウォーキング

11月5日(日)。総勢36人を乗せ田川公民館を朝8時前に出発。天気は快晴で、車窓から見る景色は紅葉できれいだ。バスは順調に進み、予定どおりに軽井沢に到着。

3班に分かれ、現地観光ガイドの案内で別荘地・軽井沢の発祥地を歩く。そこには、史跡や教会などの歴史ある建物、文学碑が数多くあり、歴史の重さを感じる。大勢の観光客が来る理由も分かる。

1時間半ほど散策し、昼食には「つるとんたん」といううどん屋で大きな丼のうどん定食をいただく。とてもおいしい。その後、駐車場に戻ってバスに乗り、道の駅「軽井

沢発地市庭」に寄る。そこで皆さん大好きな買い物も楽しみながら、ソフトクリームを頬張る。帰りは一直線で田川公民館に。時間どおりに到着する。皆さんお疲れさまでした。

【気楽に運動委員 桜井昇】



上田市文化視察

11月19日(日)、文化委員会が企画する上田市文化視察に27人が参加しました。

暖かな陽気の中、戦没画学生慰霊美術館「無言館」と上田城跡公園を訪ね、人権や平和、文化について改めて見つめなおす機会になりました。



元気いっぱい
カいっばい
カいっばい
田川地区
もちつき大会

12月10日(日)、田川地区子ども会育成会が中心となつてみんなで餅つきをしました。きねは少し重かったですが、みんなで力を合わせて作ったお餅は、温かくて柔らかくて、とてもおいしかったです。私はごまが一番好きでした。

空いている時間にみんなで遊んだのも楽しかったです。もつとみんなと仲を深めることができました。

そして、朝早くから準備してくれた地域の皆さん、ありがとうございました。

【子ども会育成会リーダー】
会長 須澤 奈々さん



研修のテーマは、参加者が高齢者中心になることが予想されたため、市出前講座のメニューから「金融被害にあわないために」を選びました。

田川地区町内公民館長会
出前講座を
活用し研修会

11月7日(火)、田川公民館で町内公民館長会が企画する研修会を開催しました。

田川地区は11の町会で構成され、町内公民館長会も同じく11人の館長で構成されています。同会の事業は、地区公民館や町内公民館の事業に比べて少なく、今回の研修会は年間事業計画上の重要な位置づけです。

講師として財務省長野財務事務所の職員2人にお越しいただき、町内公民館長や町会長、その他役員など総勢15人が受講しました。

内容は、新聞やテレビなどのマスコミ報道でも知られる特殊詐欺についてでした。とりわけ、詐欺を疑わせる電話があった時には、一人で判断せず、必ず家族や友人、警察などに相談することの大切さを改めて認識できました。一人で抱えると不安に襲われ、冷静な判断ができなくなります。周囲の人に相談することです。不安を薄め、状況を客観視することが肝心です。

また、昭和世代には知識の乏しい電子マネーについても

説明いただき有意義でした。一昨年の研修会では新型コロナウイルスについての理解を深め、昨年は多文化共生をテーマに研修を行いました。今後も社会情勢などに合わせたテーマで研修会を開催していきたいと思っています。

昭和の風土の中で活発に建設・活用されてきた町内公民館は、昨今担い手不足が課題となり、活動の在り方が問われています。少子高齢化が進む社会において、町内公民館はどのような役割を担っていくべきか、行政や地域と一体となつて考え、前進していければと思います。

【田川地区町内公民館長会長
伊藤 洋二】

新年おめでとうございます

館報編集委員会は、公民館報を通して、公民館活動を中心とする田川地区のさまざまな活動を記録・発信しています。

2024年も公民館報をよろしく願います。



2023.12.6 館報編集委員会 忘年会にて